

JHFREPORT



呉本圭樹さんがオーストラリアでPG直線距離日本記録を更新！（P12の報告をご覧ください。）

2019年度JHF事業計画と予算

2019年度が始まり、JHFは公益社団法人として9年目を迎えました。昨年度も複数の死亡事故が発生してしまったことを踏まえ、2019年度JHF事業計画と予算を次のように策定しました。

事業方針

2018年度は重大なタンデム事故が2件発生しただけでなく、事故数は減少する傾向を見せず安全対策が大きな課題となっています。安全に飛行できる

ことは普及の前提条件です。上級タンデム技能証の制度を新設し、タンデムフライトの安全を図ります。従来から作業を進めてきたハンググライディング教本を完成させパラグライディング教本を改訂します。今後も教本作成や安全セミナーなどを通じて事故の防止を図っていきます。また、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります。

フライヤー人口は少しずつ減少を続

けており上昇の機運はみられません。ただ、2018年8月にジャカルタで開催された第18回アジア競技大会におけるパラグライディングクロスカントリー競技において、男子チームが金メダル、女子チームが銀メダルという成績をあげました。両チームのメダル獲得はマスコミで大きく報道され各選手の地元でも注目を集めました。今後も多くの人々にこのスポーツを知らせていく普及活動に取り組んでいきます。

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

スポーツクラブ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

事業の具体的内容

PG=パラグライディング

HG=ハンググライディング

MPG=モーターパラグライディング

【理事会・事務局の事業】

- 1 全国のフライヤーの実態把握と安全対策
- 2 愛好者増加の推進
- 3 ハング・パラグライディングのイメージ向上・宣伝告知
- 4 委員会の主体的活動のバックアップ
- 5 ボランティア制度の活用促進
- 6 フライト中の情報交換を可能にする無線機の普及
- 7 フライヤーのための損害保険の告知と普及
- 8 スクールのための施設賠償・損害保険の告知と普及
- 9 第三者賠償責任保険の付保継続
- 10 JHF白書の編纂
- 11 寄付・助成金獲得への取り組み
- 12 その他定款の定める管轄事項

【常設委員会・事務局（広報出版）の事業】

●安全性委員会

- 1 事故情報の収集と管理
- 2 事故調査活動
- 3 機体登録制度の推進
- 4 PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの推進（教員・スクール事業委員会と合同）
- 5 海外情報収集と告知（DHV infoの翻訳など）
- 6 セーフティーノーツの管理
- 7 ハング機体整備制度・現状調査
- 8 安全性委員会ホームページの管理
- 9 事故情報アンケート調査実施（全国スクールおよびクラブエリア宛）

- 10 チェック5タグの装着を推進（安全注意喚起用）
- 11 パイロットセミナー資料の改定

●教員・スクール事業委員会

- 1 PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの開催（教員検定員が各地区で開催、安全性委員会と合同）
- 2 教員実技検定（教員検定員が各地区で開催）
- 3 教員学科集合検定（東京にて3日間 冬期間）
- 4 教員の資質向上の支援
- 5 教員助教員・レスキューパラシュートトリバック認定証更新講習会
- 6 レスキューパラシュートトリバック認定証検定会
- 7 HG教本（新版）の発行
- 8 PG教本改訂版の発行
- 9 PG・HG学科試験の見直し
- 10 パイロット証更新制度導入に向けた検討
- 11 新タンデム技能証制度の開始に伴う検定会の開催
- 12 事故情報の義務化の告知（安全性委員会と協力。事故報告の義務化を告知し、より多くの事故情報の収集を行い、事故対策に生かす）
- 13 事故ゼロウィークの提案（事故発生ゼロを目標として、パラグライダー記念日の7月31日からの1週間を設定。昨年度に引き続き実施）
- 14 スクール支援のためのニュースの定期配信（各委員会と協力し、スクールの活性に繋がる有効な情報を定期的に配信する）

●HG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 HGシリーズとフライトコンテストの管理運営と活性化

- 3 HG競技委員会ホームページの管理運営
- 4 各種大会の公認および後援申請に対する審議および承認
- 5 クラス I 日本選手権の開催（2019年9月20日～23日、茨城県足尾山）
- 6 クラス V 日本選手権の開催（2019年4月12日～14日、茨城県足尾山）
- 7 クラス I 世界選手権（イタリア 7月12日～27日）に選手派遣
- 8 SNSを活用したタイムリーな情報発信
- 9 ライトトラッカーの購入検討（技適承認取得済み、上空使用の認可を総務省に確認中）
- 10 ライブスコアリングシステムの導入検討

●PG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 ウェブ事務局／ホームページ管理
- 3 Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグの管理
- 4 J2リーグおよびアキュラシーリーグの活性化・支援
- 5 XC日本選手権の開催（2019年4月26日～30日、石川県獅子吼高原）
- 6 アキュラシー日本選手権の開催（時期、開催地未定）
- 7 XC世界選手権（マケドニア 8月5日～18日）に選手派遣
- 8 アキュラシー世界選手権（セルビア 9月8日～18日）に選手派遣

●制度委員会

- 1 JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの整備
 - 1) 理事会諮問事項への答中等
 - 2) IPPIカードに準じたHG・PG技能証規程の改定
 - 3) FAI技能記章、公式立会人に関する事項の研究
 - 4) フライヤー登録証付き技能証の研究
 - 5) ウェブでのフライヤー登録システムの研究（外国人ビジターを含む）
 - 6) ウェブでのクレジットカードによる支払いの研究
- 2 他委員会および事務局との連携
 - 1) 役員選任について役員選任実行委員会に協力して検討
 - 2) HG・PG教本の改訂作業に協力

JHFからのお知らせ

■総会を開催します

6月11日（火）11時より東京都北区の北とぴあで、2019年度JHF定時総会を開催します。総会議題は5月9日理事会で決定。傍聴については1ヶ月前までにJHFウェブサイトでご案内します。

■役員選任について

前号でJHF役員立候補者の公示日を5月14日（火）とお知らせしまし

たが、5月16日（木）に変更します。

■補助動力委員

定員になっていなかった補助動力委員会に賀家慎司氏（京都府）が応募、委員として2020年3月31日まで活動していただきます。

■フォトコンを開催

第6回JHFフォトコンテストを開催。応募締切は9月9日（月）。詳細はJHFウェブサイトに掲載します。

●補助動力委員会

- 1 MPG事故情報管理
- 2 MPGパイロット安全セミナーの開催
- 3 イベント競技（5月25日・26日 千葉：調査）
- 4 下総自衛隊安全会同への参加（2月）
- 5 レスキューパラシュートリパック講習会
- 6 チェック5タグ（MPG用のシール）作成
- 7 上級タンデム技能証の追加内容資料作成
- 8 補助動力委員会ホームページの管理
- 9 ライフジャケット（浮力体）装着の推進…水辺エリアに対して

●ハングパラ振興委員会

- 1 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討（継続）
 - －フライヤーズボイスの定期更新体制の運用と継続的見直し
 - －飛ぶのを止めてしまった方の状況

分析

- －学生が卒業に伴いやめてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
 - －家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」一般向け版制作
 - －JHFレポートの活用（特集記事執筆など）
- 2 体験等イベントへの協力
 - －体験会を安全に実施するための指針等検討（安全性委員会と連携）
 - 3 外部組織との連携
 - －VR体験に関する大学研究室との協力体制維持
 - 4 HG教本およびPG教本改訂への協力

●役員選任実行委員会

- 1 総会（本年は6月11日開催予定）における役員選任の準備と実施
- 2 役員選任規約の改定検討

●事務局（広報出版活動）

- 1 JHFウェブサイトの運営（スクール紹介サイトを含む）

- 2 JHFレポートの発行
- 3 関連媒体への情報提供（ハング・パラグライディング関連雑誌に情報を提供）
- 4 一般媒体などへの情報提供（ハング・パラグライディングの紹介、イベントやエリアの紹介など）
- 5 スクールなどへの情報提供
- 6 日本のHG・PGの歴史編纂事業

【その他の事業】

上記のほか、この法人の目的達成に必要な下記の事業を行う

- 1 技術に関する事業
- 2 教育に関する事業
- 3 安全に関する事業
- 4 競技に関する事業
- 5 その他普及啓蒙に関する事業

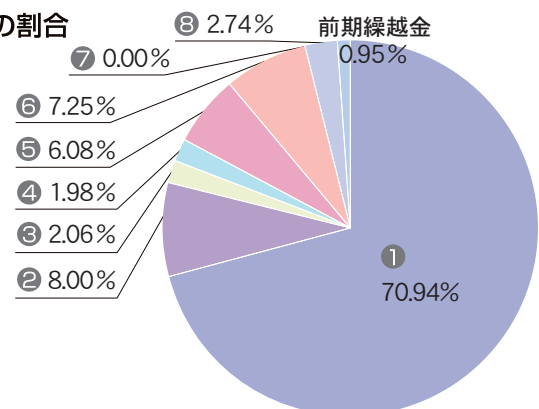
予算

2019年度予算の内訳を下のグラフにしました。JHFの活動を支えているのは会員の皆さんの会費や各種申請料などです。これらの収入がどのように活かされるのかをご覧ください。

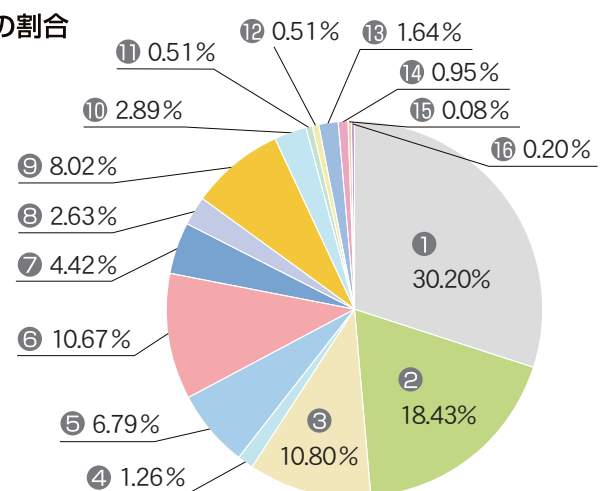
収 入 （単位:円）	
① 会費等	36,194,000
② 技能証の発行に基づく収入	4,079,000
③ 競技に関する収入	1,050,000
④ 教本等の頒布に伴う収入	1,010,000
⑤ 検定会参加費	3,100,000
⑥ 補助金	3,700,000
⑦ 機体登録費	0
⑧ その他	1,400,000
前期繰越金	485,602
合 計	51,018,602

支 出 （単位:円）	
① 会員サービスのために	17,780,000
② JHFの維持運営のために	10,851,000
③ 都道府県連盟の補助のために	6,360,000
④ 公益事業の推進のために	739,000
⑤ 世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	4,000,000
⑥ 広報・普及活動のために	6,284,000
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	2,600,000
⑧ 競技のために	1,550,000
⑨ よりよい教習環境のために	4,720,000
⑩ 委員会活動のために	1,702,000
⑪ 補助動力のために	300,000
⑫ 学生の補助のために	300,000
⑬ 事故調査や安全のために	964,000
⑭ 海外との交流のために	560,000
⑮ 制度のために	50,000
⑯ 総会のために	120,000
合 計	58,880,000

収入の割合



支出の割合



※実際の収支は積立金引出なども予算化しているため赤字にはなりません。

JHF総合保障制度2019年度募集スタート

フライヤー自身の怪我などに備える保険、「JHF総合保障制度」の今年度募集が始まりました。以下は東京海上日動火災保険からJHFフライヤー会員の皆様へのお知らせです。

■『JHF総合保障制度』とは

任意でご加入いただくフライヤーのための傷害保険です。搭乗中はもちろん、お仕事でも補償されます。また、地震、噴火またはこれらによる津波等の災害によるおケガも対象となります。

ご注意くださいのですが、フライヤー登録をすると自動加入されるのは第三者賠償責任保険です。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

■2019年度募集がスタートします

今年度で14年目を迎える本保障制度は、2019年3月1日現在、約834名の会員の皆様にご加入いただいております。

まずは、引き続き安全なフライトをお心がけいただき、事故なくおケガなくフライトを楽しんでいただくことが大切ですが、万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただけ

ますようお願い申し上げます。

◆JHF総合保障制度の特徴

・国内外を問わずパラグライダー（含むモーターパラグライダー）搭乗中はおとより、お仕事や日常生活のおケガ、および遭難の際にかかった捜索費用等の補償を致します。

・地震、噴火またはこれらによる津波での傷害についても補償対象となります（この場合は救援者費用保険金につきましては対象となりませんのでご注意ください）。

・団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

◆現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を4月上旬に郵送させていただきました。大切なお知らせですので、書類到着後、必ず内容のご確認をお願い致します。その上で、以下ご対応をお願い致します。

☐プランに変更あり→期日までに訂正の上ご返送ください。

☐プランに変更なし→自動継続となります。ご返送不要です。

☐ご解約→必ずご返送ください。

☐引落口座変更→専用書類がございます。下記問合せ先までご連絡ください。

◆新規ご加入の皆様へ

ご加入をご希望される場合は、同封のパフレット等をよくお読みいただきお申込みください。

※締切厳守…5月7日（火）必着

【保険に関するお問合せ先】

東京海上日動火災保険代理店
株式会社東海日動パートナーズTOKIO
池袋支店

〒170-6030

東京都豊島区東池袋3-1-1

サンシャイン60ビル30階

TEL.03-6907-4622

（平日9:00～18:00 土日祝除く）

FAX.03-6907-4623

Email : info.ikebukuro@tnpgrp.jp

フライヤー登録と同時に加入する保険（第三者賠償保険）では、ご自身のおケガは補償されません！

県連だより

■福島県体協よりスポーツ功労賞

福島県ハング・パラグライディング連盟

1月8日（火）に公益財団法人福島県体育協会の平成30年度表彰式が行われ、福島県ハング・パラグライディング連盟の初代会長、現顧問の佐藤常寿氏がスポーツ功労賞を受賞しました。

佐藤氏は当連盟の前身である福島県ハンググライダー連盟時代から普及活動と組織運営に携わり、平成2年の当

連盟創立時には初代会長に就任。長年にわたって福島県スカイスポーツの普及活動に尽力されてきたことから今回の表彰となりました。

■航空スポーツ教室でふわり体験

茨城県ハング・パラグライディング連盟

2月23日（土）に茨城県石岡市の八郷総合運動公園にて日本航空協会の航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・プログラム」が開催され、当連盟が協力をして、パラグライダーのふわり体験を行いました。

参加者は全員が熱気球体験をし、座学で飛行理論の基礎を学んだ後に、模型飛行機教室とパラグライダー体験に分かれ、25名の子どもたちがパラグライダーのふわり体験をしました。多くが「楽しかった」「おもしろかった」とアンケートに回答してくれました。

ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



子どもたちはふわり体験に大満足。



付き添いの保護者もバラに興味津々。



福島県体協の名誉会長、内堀雅雄県知事から表彰状を授与される佐藤氏。

JHFの動き

タンデム技能証規程改定 上級タンデム技能証を新設

タンデム飛行が盛んに行われ、重大事故も発生している現状を踏まえ、タンデム技能証規程の改定を理事会で決定。2019年4月1日から同乗者を限定しない上級タンデム技能証を加え、従来のタンデム技能証は名称を変えず同乗者を限定することになりました。詳しくは10ページをご覧ください。

HGレジェンドたちが集合 耳納で還暦アップカップ開催

3月16日（土）・17日（日）、JHFが後援する「ハンググライディング還暦アップカップ2019 in 耳納」が開催されました。以下、現地からのレポートです。

競技内容はパイロン+ターゲット部門と、ターゲット部門。初の還暦以上のみの選手の大会に全国から選手が集まっていただき、大いに盛り上がった。[初日] 昼前から日差しが強くなり良いコンディションに。12時過ぎに高宮末吉選手が最初にテイクオフ。一時は高度を落としたが、そこから粘って雲底1500m付近まで上昇。唯一フルパイロン。この日は80歳で最高齢者の西村謙治選手を坂本三津也選手が空中撮影するテレビ局の取材も行った。そのため坂本選手はターゲット部門に出場、見事ターゲットから1mのランディング。レセプションでは中野忠志選手が迫力の太鼓とギターを披露。[2日目] 強い北西の風でリッジコンディション。6人がフルパイロンし、

トップゴールの高宮選手が2日連続トップ。坂本選手もターゲットから3mで2日連続のトップとなった。

[パイロン+ターゲット部門]

1位 高宮末吉 2位 木村政樹
3位 郷田 徹

[ターゲット部門]

1位 坂本三津也 2位 丸山 完
3位 城戸重晴



レジェンドが集まる素敵な大会だった。

学連ニュース

日本学生フライヤー連盟（JSFF）理事長の墨幹（東京工業大学大学院1年）です。昨年度に引き続き、2019年度もJSFF理事長を務めさせていただきます。昨年度の経験、反省を踏まえて、学生フライヤーの活動を盛り上げていきます。よろしくお願いいたします。

3月10日にJSFF総会が開かれました。総会では、全国の役員がオンラインで繋がり、1年間の活動報告や新役員の承認を行いました。また、新年度の活動指針を議論、諸問題の解決にも取り組みました。

2019年度の活動指針はPG・HGで空を飛ぶことの楽しさを初心者向けに広めることを中心に考えていきます。PG・HGは飛ばば飛ぶほど自由に楽しめることが増えていくものです。しかし、勉強や他のサークル活動など多忙な学生にとっては自由に楽しめるステージに達するまでに時間がかかって

しまい、途中でやめてしまう人が一定数いるようです。初心者にとっては飛ぶ楽しさのイメージを持つことが継続の要因になると思います。そこでJSFFでは初心者でも空を飛ぶ楽しみ方を教えられようなものを作成し、広めることを考えていきます。また、初心者でも楽しめるようなコンテンツを準備します。

また、対外的な活動として学生の少ないエリアのフライヤーも含めて学生の活動を広めていきたいと思います。そのためにSNS（Twitter、Facebook）を盛り上げ、広報活動を行っていきます。HPの整備も進め、情報発信の中心地にできればと思います。

学生間の交流活性化の一環として、2019年度から学生フライトコンテストを一新します。これまではXCコンテストのみでしたが、XC証を持つ学生が少ないことから普及しませんでした。今年度からは部門をアウトアンドリターン、デュレーション、最高高度の3部門編成にし、初心者からでも参加できるようなコンテスト内容に改定しました。フライト技術の向上や、学生の交流の基盤になれば幸いです。学生の皆様の挑戦をお待ちしております。

最後に春に開催された大会を紹介いたします。2月下旬に龍門山でHG学



HG年間リーグExpertクラス。左から中西選手、須山選手、鳥居選手。



PG年間リーグOpenクラス。左から墨選手、田邊選手、福丸選手。

生選手権、3月頭に荒神山でHG新人戦、足尾山でPG学生選手権が開催されました。学生選手権ではHGは約50人、PGは約40人の選手が、HG新人戦は30人近くの選手が参加し、これまでにない盛り上がりを見せました。また、学生選手権の最後には年間リーグの表彰も行われ、団体戦のHGはP.F.C.、PGはSylphが優勝しました。詳しい大会結果報告はJSFFのHPにアップしておりますのでぜひご覧ください。



JSFF総会はオンラインで開催された。

2019年CIVL総会レポート

国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）の総会が今年も開催され、日本代表デレゲート（委員）として岡芳樹さんが日本航空協会より派遣され、北野正浩さんがオブザーバーとして参加。以下はお二人からの報告です。

PG＝パラグライディング

HG＝ハンググライディング

XC＝クロスカントリー

日程：2019年1月31日～2月3日（各
部会：31日・1日、総会：2日・3日）
場所：スイス ローザンヌ

総会参加国：ブラジル、台湾、デンマーク、フィンランド、マケドニア、フランス、ドイツ、イラン、イタリア、日本、コソボ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、セルビア、スロベニア、スウェーデン、スイス、トルコ、イギリス、アメリカ合衆国
委任：アルジェリア→フランス、ラトビア→スウェーデン、クロアチア→スロベニア、カナダ→アメリカ合衆国

【報告・議決事項】

FAI関連

■国際航空連盟（FAI）事務局長からの話で、9月中旬にドローン（商業的）との共生（エアスペースの使用に関して）に関する会議を開く。

■FAI全体の公認大会の48%はCIAM（模型）、40%はCIVLで突出している。

■ドローンが急成長している。

■FAI, NAC (National Airsports Control), ASC (Air Sports Commission) が協力して、航空スポーツの発展のために努力する環境を作り出すプロジェクト（One FAI）が立ち上げられた。

■現状のFAIのSL発行システムは問題が多い（国により高額であったり、いろいろな制約があったりする）ので、FAIが直接、定額で発行するようなシステムに変えてゆく（実現には数年かかる？）

■ワールドエアゲームズ（WAG）に関して、トルコで2020年の予定であったが、諸般の事情で2022年開催となった。またこれまでは現地の主催者が主体であったが、多くの問題が起きた経験から、現地の主催者の協力の下、FAIが主体となって運営する方向。FAI

との協議の末、CIVL関連としては…

・第18回PGXC世界選手権

・第12回PGアキュラシー世界選手権

・第4回PGアクロバット世界選手権

・第3回HGWAG選手権として開催する方向

また、2022年のHGパンアメリカン選手権とPGアジア選手権について、適切なオーガナイザーからの立候補がない限り、大陸選手権は開催しないこととなった。

CIVL全体関連

■PGアキュラシー用AMD（自動計測装置）一式（風速計も含む）を購入。カテ1（カテゴリー1）大会に無償で貸し出し（ただし運送料は必要）。PGアクロ用ラフトを購入する予定。無償で貸し出し（ただし運送料は必要）。

■2017年の総会ならびに2018年の理事会決議により、公認大会申請管理システム(AMS)と大会管理システム(EMS)のソフトの開発を行っている。AMSはオンラインで公認申請を行えるようにするソフトで、開発費用はFAI（50%）とCIVL（25%）、CIAM（25%）で分担し、CIVL分は約7200ユーロ（93万円）。EMSはAIRTRIBUNEのようなもので、大会の案内、オンラインエントリー、FAIスポーツングライセンスのチェック、大会結果のアップロード、WPRSポイントの計上などをするソフト。当初はFAIの他の種目でも運用できるものを考えていたが、時間がかかったり複雑であったりして非現実的なため、CIVL専用とし費用は全額CIVLが負担することとする。いくつかのソフト会社に相見積もりを取り、最も安価で、すでにFAIと取り引きをしているウクライナのNoosphereに発注する予定。予算は6万ユーロ（780万円）。目標は、来年のカテ1大会で使用できること。

■S7（セクション7：HG・PG関連）共通12.4項（公認申請料に関して）申請料の返却の際、事務手数料（50ユーロ）が差し引かれる。大会参加費が払い込む日付で異なる場合は、最も金額が低いものを基準とする。との文言が追加された。

■S7共通6.3項（ローカルルールの承認と公表に関して）

これまで、CIVLが…となっているところを現実に即して、CIVL理事会が…と変更する。

■S7共通11.1.2項（スチュワードの任命に関して）

スポーツイングコード総則と現状に合わせる。現行のS7で「CIVLは大会主催者と協議して1名あるいはそれ以上のスチュワードを任命する。スチュワードの国籍は、大会主催者と同じ国籍でないこと」を、「CIVLは大会主催者と協議して1名のスチュワードを任命する（大会主催者と同じ国籍でもOKになる）」と変更する。

■S7共通12.2.1項（カテ2大会に関するNACによる許認可に関して）

現行ではNACの存在しない地域においてカテ2大会を開催することは想定されていないが、そのような地域においても大会を通じてこのスポーツを発展させるためにカテ2大会を開催できるよう「NACの存在しない地域で大会を開催するには、大会主催者はその地域の適切な管理者（スポーツ省、民間航空局など）に通知しなければならない。通知したことを証する書面がFAI/CIVLに公認申請用紙と共に提出されなければならない」との文言を追加する。

■S7共通4.4項（セーフティディレクターに関して）

現行ルールでは、セーフティディレクターの唯一の責任は安全であるとしている（その他の仕事は兼務できない）ところを、少し緩め、主催者の安全に対する取り組みが十分であるならCIVL理事会は了承することとする。「唯一の」という文言を「主たる」に変更する。

■フランスからの提案

SAFEPROのタンデム技能証に関しては、訴訟問題にも影響するので、法律家の意見も参考にして理事会に一任する。

■財務報告と予算案は承認された。

HG/PG XC関連

■S7A 7項（コンプレインとプロテストの時間に関して）

時間の基礎となるプロビは本部の公式掲示板に掲載されたものとする（ネットなどで出されたものは考慮しない）。コンプレインおよびその結果は本部の公式掲示板に掲載される。コンプレイ

ンの結果に不服な場合、プロテストを提出する。最後とそのひとつ前のタスクに関し、プロテストはコンプレインの結果が公表されてから1時間以内になされなければならないこととなった。

■S7A 2.2.7項（スクリーニングコミッティーに関して）

該当する委員会（選手権がPGXCであればPGXC委員会）の委員長を含める。その委員長がスクリーニングを主導し、NAC、主催者、CIVL会長に報告することとなった。

■S7A 5.5.3項（スコアシートに関して）
現状ではスコアシートがオフィシャルになったかどうかが判然としないのを是正するため、「コンプレインあるいは未解決のプロテストあるいは問題がなければ、日々パイロットブリーフィングの前にスコアシートはオフィシャルと明記される。大会最終日のパイロットブリーフィング前にそれまでのすべてのタスクの結果はオフィシャルと明記されなければならない」を追加。

■S7 GAP 4.2項（距離に関して）

HGとPGで違う取り組みとなっていたがこれを統一し、両方ともWGS84を使用することとする。

■S7A GAP 8.1.1項（ターンポイントシリンドラーへの到着に関して）

これまでの経験を考慮して、カテ1ではトレランスを0.1%とし、カテ2ではFAI球体をいまだに使用しているパイロットを考慮してトレランスを最大で0.5%とする。

■S7共通 12.5.1.1項（XC（HG/PG）カテ2大会での大会成立条件に関して）
最少人数に関して、現在は規定がないが、参加者が1名の大会が意味を成すかということで、最少人数を2名とする文言を入れることとなった。

■S7共通 4.4.2.1項（XC大会におけるセーフティコミッティーに関して）

人選は、飛行エリアとコンディションに精通したパイロットのみとし、その大会で上位に来るものだけではなく、幅広いレベルのパイロットを含むものとする。コミッティーメンバーは無線を傍受できるようにしていなければならない。以上を追加する。

■S7A GAP 11.2項（タイムポイントに関して）

ベストタイムとして何を採用するかが明確でなかったので「ベストタイムはゴールした選手の中でのベストタイム



総会には22カ国の代表が参加。委任4。

とする」を追記する。

■ポルトガルからの提案

S7D 3.2.1項 HGとPGの記録飛行に関して、3.2.1.1項として「直線距離飛行および直線目的地距離飛行において、発航方法（フットランチとトーイング）により記録を分ける」を追加する案は否決された。

■ポルトガルからの提案

ルール上、カテ2大会申請が30日前になっていることで、当日の天候が悪く大会が成立しないことがある。それを避けようと天候がはっきりしてから大会を開催すると、カテ2申請をできないが、このような大会もWPRSポイントを計上できるようにしたいという提案は、S7共通 12.2.3項（予備日）の文言「一つの予備日…」となっているところを「いくつかの予備日…」と変更する提案に改めて提出され、承認された。

■ブラジルからの提案

記録を狙うあまり暗くなるまで飛ぶ危険性を避けるために、S7D 1.5.4項（達成されなかったフライト）に、「記録飛行は当該国のルールに従うか、日没までに終了すること、と文言を追加する」は承認された。

■ブラジルからの提案

S7D 3.3.1項 前もっての宣言に不正を防ぐために「目的地宣言飛行に関してはテイクオフ前にパイロットのNACに電子メールあるいはその他の電子的方法で通知することを追加する」は承認された。

■ブラジルからの提案

エラプスタスクにクロックスタートを導入する案は取り下げられた。

■ブラジルからの提案

気象条件などが厳しい中、レースでタスクをスタートし、選手が1人でも飛んだ後に、エラプスに変更して何とかタスクを成立させられるような提案は、カテ2大会のみに可能なこととし文言を修正して、大会開催のガイドラインに盛り込むことで承認された。



総会に先だって行われたHGPG部会。

■ハンガリーのパイロットからS7Dに関する提案

説明文が不明瞭だったり、項目の分類が不適切であったりしているところを整理する提案は承認された。

■競技で使用可能なCIVLフライトレコーダー・スペシフィケーションを満たすGPSの一覧はCIVLウェブサイトに掲載完了。新しい機種が発売されてもすぐに一覧を更新できる体制ができた。

HG関連

■アメリカ合衆国からの提案

HGクラス2の大会においてテイクオフにドリーを使用することを許可する案は理事会に委任することとなった。

■フランスからの提案

HGクラス2大会でモーター使用の発航を許可する提案は理事会に一任。CASIによる整合性を確認することとなった。

PG XC関連

■S7 GAP 10項（PGでのリーディングポイントに関して）

2017年総会で決定し、実際に使われたLPを従来のものの2倍とすることは、2018年のヨーロッパ選手権で期待していない悪影響（ガーグルから誰も先に出たがらない、ESSを先頭に切った選手が実際のタスクランキングでトップ20にも入らないなど）が出たので、これをもとに戻すこととする。

■S7A 2.1項（エントリーに関して）

現在PGでは最大人数を150名としており、安全上の問題（特にスタート前）でこれを125名に削減するという提案について、人数を減らすことが安全に直結するか疑問、タスク設定やLPの配分など、他の方法で解決できるのではとのことで、今回は見送りとなった。

■S7A 8.5.4項（PGでのバラストに関して）

これまでは、パイロットの空身の体重を測定し、それに対して33kgのパラ

ストを積むことが、また、但し書きで飛行重量95kgまでバラストを積むことが許されていた。しかしこのコントロールは大変難しく、不正もあり、PWCでバラストの制限を取り払って上手くいっていることから、バラストに関する規制をなくし、単にグライダーの許可されている飛行重量に収まっているかどうかだけをチェックすることとする。

■スイスからの提案

PGのジュニアクラスに関して、とりあえずWPRSランキングにジュニアクラス(25歳以下)を設け、選手権者に関しては今後判断することで承認された。

■フランスからの提案

S7共通 2.5.2項 ディフェンディングチャンピオンの参加に関する項に、PGXC選手権に対して、女子WPRSランキングのトップ5の選手が特別枠で参加できるようにする提案は承認された。

■パラグライディング・ワールドカップ・アジアツアーについての説明がなされた。このスポーツが発展してきているアジアにおいて、アジアパイロットがもっと容易にカテ2大会にアクセスでき、レベルを上げ、WPRSランキングでも上位に入れるように、PWCA、CIVL、FAIが協力してサポートをしていく。4月には中国のJingmen市において、このコンセプトに賛同する国の代表に対するセミナーを行い、大会をいろいろな国で開催支援をしてゆく。今年は7月に中国(内蒙古)、10月に韓国(Gochang)で開催することが決定している。

PGアキュラシー関連

■WPRSポイント計算に関して

現行のWPRSポイント計算式のPq(参加選手の質に関する係数。参加選手の50%の人数のWPRSトップランキング選手のWPRSポイントを合計したものにより決定され、トップランカーが全員参加していると係数は1に、トップランカーが1人も参加していないと最低の0.2となる)とTa(大会の成功率をはかる係数。成立ラウンド数により変化する。現在は1ラウンドで0.5、2ラウンドで0.8、3ラウンド以上で1となっている)に関して、改定をする。Pqに関しては50%ただし最大30人とする(こうすることで、世界選手権やヨーロッパ選手権のように参加選

手数が大きくなった場合に50%が大きな人数となり、WPRSポイントの下位選手も計算に組み込まれてしまい、そのような大会での質が低下し参加選手が獲得できるWPRSポイントが下がってしまう弊害を是正する)。Taに関しては提案通り承認され、12ラウンドで係数は1となり、これまでの3ラウンドでは0.7となる。

■S7Cの改定案は、2.4項 選手選抜に関して、提案では選手のWPRSランキングを使用して…という文言は意味をなさないのではこの文言を削除した形(S7Aの2.4項(HG/PG XC用)と同じ文言)に変更して、全体が承認された。

■スイスからの提案

PGのジュニアクラスに関して、とりあえずWPRSランキングにジュニアクラス(23歳以下)を設け、選手権者に関しては今後判断することで承認された。

■エストニアからのS7Cに関する提案は反対多数で否決された。

PGアクロ関連

■予算措置に関して

ジャッジセミナーに8000ユーロ、ジャッジセミナー教育ビデオに2000ユーロ、ランディング用4m×4mのラフトに3000ユーロ、2012年から使用しているスコアリングソフトの更新に1200ユーロは承認された。

■S7共通 12.5.1.3項(カテ2アクロバット大会の成立に関して)

カテ2大会の成立に関わる最低参加選手数を現行の10人から2人に変更する。

■スイスからの提案

PGのジュニアクラスに関して、とりあえずWPRSランキングにジュニアクラス(23歳以下)を設け、選手権者に関しては今後判断することで承認された。

その他

■選手権の開催地決定

・2020年第4回PGXCパンアメリカン選手権はブラジル Baixo Guandu

・2020年第3回PGアクロ世界選手権はイタリア Trasaghis

・2020年第2回HGクラス1スポーツ世界選手権／第14回HGクラス1女子世界選手権／第9回HGクラス5世界選手権／第12回HGクラス2世界選手権はアメリカ合衆国 Groveland

・2020年第1回HGクラス1パンアメリカン選手権はアメリカ合衆国 Big Spring

・2021年第23回HGクラス1世界選手権はマケドニア Krushevo

・2021年第17回PGXC世界選手権はフランス Annecy-Chambery-Passy

・2021年第11回PGアキュラシー世界選手権はマケドニア Prilep

■各賞の推薦

・FAI GOLDメダル: Domina Jalbert ラムエアーパラフォイルを発明した

・FAI AIR SPORTメダル:

* Associação Capixaba de Voo Livre (ACVL) 第3回PGXCパンアメリカン選手権主催者(Baixo Guanduブラジル)

* Sport Club Cross Country XSC 第20回HGクラス1ヨーロッパ選手権、第8回HGクラス5世界選手権主催者(Krushevoマケドニア)

* Portuguese Free Flight Federation (FPVL) 第15回PGXCヨーロッパ選手権主催者(Montalegreポルトガル)

* Drušvo Adrenalin and KJP Krokari Zvezdani 第6回PGアキュラシーヨーロッパ選手権主催者(Kobaridスロベニア)

・CIVL HG&PGディプロマ: フランスからJean-Louis Darlet フレンチコネクションなどを考案

・CIVL Pepe Lopesメダル: スロベニアからRok Dolinsek そのスポーツマンシップに対して

■次期総会開催場所は、正式ではないが立候補の意思があるIstanbul(トルコ)、Ohrid(マケドニア)、Belgrad(セルビア)の中から理事会が決定する(3月中旬をめど)。

■役員選挙

会長: Stephane Malbos(フランス 再選)
副会長: Goran Dimiskovski(マケドニア 再選)

Igor Erzen(スロベニア 再選)

Zeljko Ovuka(セルビア 再選)

Jamie Shelden(アメリカ合衆国 再選)
事務局: Mitch Shipley(アメリカ合衆国 再選)

会計: Andy Cowley(イギリス 再選)
HGXC委員長: Jami Shelden(アメリカ合衆国 再選)

PGXC委員長: Goran Dimiskovski(マケドニア)

PGアキュラシー委員長: Riikka Vilkkuna(スウェーデン 再選)

PGアクロバット委員長: Claudio Cattaneo(スイス 再選)

ツリーランしたら「自己確保し救助を要請」が基本

JHF安全性委員会 竹村 治雄

春が訪れ、上昇気流の活発な時期となりました。この時期の変わりやすいコンディションに十分対処して、楽しく安全なフライトを心がけていただきますようお願いします。

2018年の事故情報について

JHFでは、スクールやエリアからの事故報告や報道機関の報道をベースとして事故情報を年ごとにまとめ、ウェブサイトの安全性委員会のページで報告しています。2018年の死亡事故は5件で合計6名の方が亡くなりました。内訳はパラグライダー5件、モーターパラグライダー1件。パラグライダーではタンデムでパイロットとパッセンジャーが共に死亡する事故が起きています。

2017年までの傾向と大きく異なるのは、着水による死亡事故が昨年はなかったことです。一方でレッグベルト締め忘れなど、事前の安全点検を徹底することで防げる事故が引き続き生じています。テイクオフ前のクロスチェックとセルフチェックの徹底をお願いします。事故報告に関してのパイロットの年齢、怪我の程度、事故発生時の状況（テイクオフ、飛行中、ランディング等）の分類をグラフに示します。

ツリーランした場合の自己脱出（セルフレスキュー）について

昨年、ツリーランした際に自己脱出を試み、失敗して死亡する事故がありました。またツリーラン救助中に枝が折れて要救助者が怪我をするという事

故も起きています。

皆さんは何らかのツリーランキットを持ってフライトされていることが多いと思います。また、キットには、自己脱出を可能にする装備がたいてい用意されていますが、**ツリーランした場合、自身がそれ以上落下しないように自己確保（セルフビレイ）を取り、救助を要請するのが基本**と考えてください。自己脱出は、救助の要請ができず、探してもらえない確率も低く、日没が迫るなど相当の理由がある場合にのみ、かつご自身が自己脱出の練習を繰り返し、そのやり方に精通している時のみに行うものと考えます。

では、ツリーランキットは何のためにあるのでしょうか？ 色々な使い方が考えられますが、自分がツリーランした場合は、自己確保をするための道具、かつ救助者を樹上からサポートするために必要な道具と考えてください。

ツリーランした場合に、手の届く範囲に木の幹や枝があれば、これらとスリング等を利用して落下防止の自己確保を行うことができます。しかし、木の幹や枝に手が届かない場合はどうでしょうか？ このような時には、6ミリ程度のロープの先端にカラビナを重りとして取り付け、頭上や斜め上にある枝や木の幹にめがけて投げることで、落下防止のロープを枝にセットしたり、木の幹まで近づける場合があります。

6ミリのロープを利用し10ミリ程度のクライミングロープを地上から引き

上げ、救助者が要救助者の位置まで登ることを容易にすることもできます。

重要なことは、自分がこのような状況となった場合にどういう手順で何をすべきかを日頃から確認しておくことです。そうすることで、慌てず落ち着いた行動が可能となります。

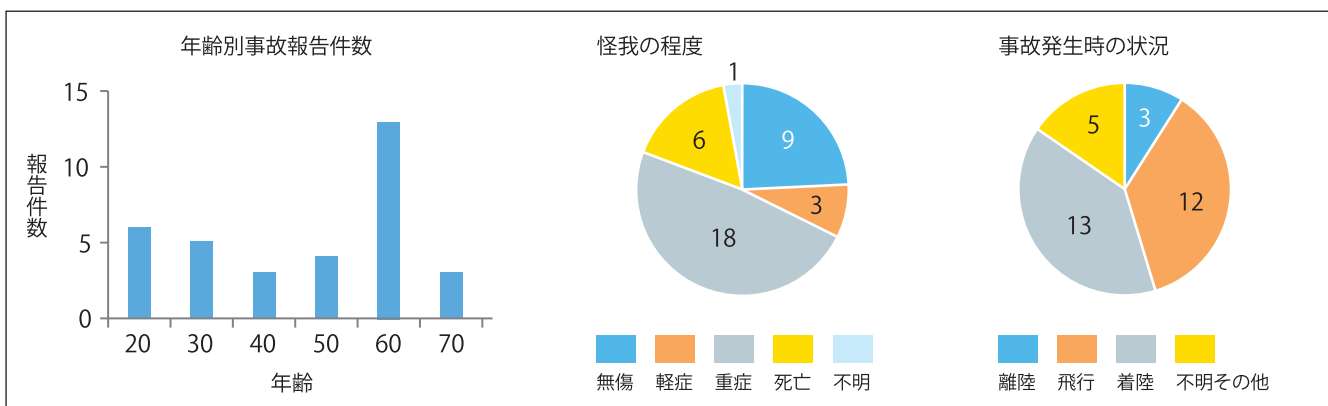
以下にツリーランをした場合の、一般的な要救助者と救助者の動きを紹介します。自分のエリアの状況に当てはめて、どういった手順が良いのか、自分で考えてみてください。

【1. 自己確保をする】

まずツリーランの状況を確認し、特に、それ以上の落下による怪我を予防するために自己確保が可能かを確認します。自己確保ができる場合は、持っているロープ、スリング等を利用して自己確保をします。大きな枝や木の幹に手がとどく場合はこれらにスリングを巻きつけて（タイオフして）カラビナ等でハーネスのカラビナのゲートとは反対側に取り付けます。木と木の間に宙吊りになり自己確保が困難な場合は、グライダーの状況を確認します。また、ツリーランの際に怪我をしていないかも確認します。

【2. 状況報告をする】

次に、無線でエリア管理者や他のフライヤーに状況を報告します。この際、怪我の有無、自己確保の有無、地上からの高さ、ツリーランした座標などを伝えます。また、スマートフォンの通信範囲内であれば、GoogleMap等の位置情報伝達を簡単に転送できます。そ



の場合、LINE、メッセージなどの連携が有効です。

【3. 管理者が救助要請を判断】

要救助者からの無線連絡を受けたエリア管理者は、必要に応じて他のフ라이어に無線で指示を出すと同時に、(A) 救助隊を編成し救助を行うのか、(B) 消防等に救助要請を行うかを決定し、(B) の場合は救助を要請します。要救助者が怪我をしているかどうか、自己確保の有無、怪我の程度、救助にかかる時間等と日没時刻の関係等を考えて判断を行うことになります。出血を伴う怪我の場合は、要救助者を最も迅速に救助できる方法を選択しなければなりません。自己確保ができており怪我のない場合は、救助に必要な人員（必要な訓練を受けていること）を集められれば仲間内での救助も可能です。要救助者に怪我がなくても自己確保ができていない場合は、救助要請も検討する必要があります。

【4. 自己脱出を急がず救助を待つ】

差し迫った必要がない限り、要救助者は自己脱出せずに、救助者が現場に到着するのを待ちます。一般に自己脱出は要救助者が自分で地上に降りるこ

とを言いますが、この後グライダーの回収のために救助者が木に登ることになります。要救助者が自己脱出用の細めのロープを持っていれば、それを使ってクライミングロープを地上から引き上げることで、救助者はより迅速に要救助者の高さまで木に登ることができます。一方、早く木から降りないと日没となる場合等は、自己脱出が必要となります。ただし、要救助者が自己脱出の方法に精通していることが条件です。精通していない場合は、救助者が現場に到着してから救助者の指示により自己脱出や地上からの吊り上げによって脱出する方法を考えることになります。

【5. 救助者が救助方法を決定】

救助者が現場に到着したら、救助者が状況を判断し救助の方法を決めます。特に宙吊りの場合は、2名以上の救助者が連携して救助に当たることが有効です。

【6. 救助装備を備える】

自己確保ができていない場合は、要救助者のもとにいち早く駆けつけ、救助者が要救助者の確保（ビレイ）を行う必要があります。特にテイクオフ直

後のツリーランの場合は、テイクオフ場から救助に向かった方が早く現場に到着できる可能性があるため、テイクオフ場に救助に必要な装備を用意しておくことは有効です。救助者が要救助者のビレイを取るためには、救助者が要救助者より高い位置まで木に登って、要救助者にビレイのためのロープ等を投げることになります。このため、早く木に登るための一本梯子等をテイクオフ場に設置しておくのも有効です。

【7. 日頃の練習が大切】

最後に、エリアの特性を考慮しつつも、常にツリーラン救助の練習をしておくことが重要です。これにより、様々なクライミングの道具の使い方をマスターできます。また、木に登るために必要な体力を維持することもできます。救助者の事故も過去に起きているため、仲間内での救助が困難と思われる場合、無理な救助はせずに、消防に依頼する判断も常に考慮しておきましょう。

定期的にエリアでのツリーラン救助の練習とツリーラン発生時の対応を確認しておくようお願いいたします。

第1回上級タンデム技能証検定会報告

JHF教員・スクール事業委員会 委員長 北野 正浩

JHFウェブサイト「Topics」2019年1月30日付記事の通り、4月1日からタンデムの技能証は2段階になりました。従来のタンデム証は、名称は変わりませんが、移行期間経過後は後述のとおり同乗者の制限ができます。仮称「タンデム2」として検証を重ねてきた、同乗者に制限のない新技能証の正式名称は「上級タンデム技能証」となりました。2020年3月31日までの移行期間中、従来のタンデム技能証保有者はこれまでどおりにフライトでき、検定を受けて合格すれば上級タンデム技能証を取得することができます。

昨年12月にタンデム証保有者全員に意向調査を行ったところ、250名を超える方々から、取得希望の回答とともに様々なご意見をいただきました。ご指摘を取り入れつつ、タンデム飛行を取り巻く社会環境の変化、既存の技能

証規程との整合性、現役でタンデム飛行をしている皆さんへの影響などを考慮して、検定の内容と方法を吟味してきました。そして、初回検定会には教員技能証を有する方のみでの参加を募り、合格者に全国各地で上級タンデム証の検定会を開催していただく、という方針を決めました。

制度の概要

ハンググライディング (HG)、パラグライディング (PG) とともに「タンデム技能証」「上級タンデム技能証」と、技能証が二つになりました。

「タンデム技能証」

- ・パイロット証を持つ者が、講習と検定を受けて取得する。
- ・検定は、タンデム証または上級タンデム証を有する教員が行う。
- ・同乗者は、パイロット証保有者と同

居親族に限定される。

・ただし、上級タンデム証を有する教員または助教員の監督下であれば、フ라이어登録が有効な者を乗せて飛行することができる。この場合、監督者はJHFに申請書を提出しなければならない。

「上級タンデム技能証」

- ・あらゆる人を同乗させて飛ぶことができる。
- ・タンデム技能証を有する者が、講習と検定を受けて取得する。
- ・検定は2日間で実施し、装備確認、学科講習と学科試験、ソロフライト実技（ショートフライトと高高度フライト）、タンデム高高度フライトの検定を行う。
- ・受検者は、JHF指定の様式による健康診断書を提出する。
- ・上級タンデム証の有効期間は3年で、

更新が必要。

・有効期間内に更新しないと、同乗者が限定される「タンデム証」となる。

今後の検定

従来のタンデム証をお持ちの方には、1年間有効な暫定上級タンデム証をお送りしました。2020年3月31日までの移行期間はこれまでどおりフライトでき、検定を受けて合格すれば上級タンデム技能証を取得できます。上級タンデム証の取得を希望される方は、各地で開催される検定会（初回検定の合格者が検定員）にご参加ください。

第1回上級タンデム検定会

3月12日（火）～14日（木）の3日間、第1回検定会を静岡県朝霧エリアで開催。全国各地から61名が参加。PG受検者54名、HG受検者8名（両方を受検した方もいた）。ソロフライト実技（ショートフライトと高高度フライト）、機材確認、学科講習、学科試験、タンデムフライト実技検定を実施することができた。

初日

講習斜面にてショートフライト実技を実施。テイクオフからランディングまでの模範演技により基礎技術を確認。全員の演技を録画し、ビデオを上映して相互採点をした。

2日目

冬型の気圧配置で強風のため、高高度フライトを翌日に延期し、参加者全員が安全で確実なフライトができる機材を使用していることを確認した。全国のインストラクターが集まる貴重な機会を活かして、現場で実践している知識を交換することもできた。

続いて学科講習と学科試験。新しい上級タンデムの技能証規程と、新しいタンデム教本の内容を解説して、試験を実施。学科試験は全員合格だった。

3日目

冬型の気圧配置が緩む傾向となり高高度フライト検定を実施できる可能性があったため、朝7時に集合。風は弱くフライト可能と判断し、検定実施を決定。実技検定は全て録画を行った。まずはソロフライト検定から。

今回のソロフライト検定の採点は受検者全員が相互に行った。この後のタンデム実技検定で相互にパッセンジャーとなって飛ぶことになるため、

真剣かつ厳しい評価になる。我々委員や担当理事も受検者として、同じ条件で評価を受けた。結果、HG受検者は全員合格だったが、PGはこの段階で14人が不合格となった。

ソロフライト検定の後も風は良好でタンデムフライト検定を実施。ソロ合格者がくじ引きで組合せを決め、パイロットとパッセンジャーの役割を相互に交代して高高度フライトをした。

タンデム検定を終えた後、閉会式を行い解散。委員会は現地に残り、深夜までかかってタンデムフライトのビデオ判定をした。結果は、HGは8名全員合格、PGは30名合格。この方々には今後、検定員として検定会を開催し、安全で確実なタンデムフライトの普及に尽力していただくことになる。

初回検定の結果は厳しいものになりました。委員会としても苦渋の決断を迫られる場面が多々ありましたが、タンデムフライトを今後も社会に認められるものとして安全に続けていくため、高い基準を設け、維持し続けていく所存です。

今回の検定会を通じて、参加者の皆さんから貴重なご意見を多数いただきました。内容を精査し、今後の検定の改善につなげていきます。また、今後の受検者が事前に合格基準を理解できるよう、撮影した映像を編集し、模範演技と、合格に至らない参考演技の違いがわかる動画を作成します。

実技検定の終了後、「多くの知識を得て、現実的な問題点も学んだ」「今回の検定会の必要性が理解できた、参加してよかった」という感想を多数いただきました。全国からご参加いただいた皆様、運営に携わった皆様、ありがとうございました。より安全で確実なタンデムフライトの普及のため、委員会一同尽力して参りますので、これからもご協力をお願いします。

【PGソロフライト検定科目】

1. 離陸のタイミング（テイクオフ全般の確認）
2. フライト空域（安全な演技場所の設定）
3. 片翼潰し（30%以上）
4. ローリング（45度バンク）
5. 連続2回の360度旋回（20秒以内に2周）

6. ランディングアプローチ（ファイナルアプローチを5秒以上）

7. ランディング（足のみで着地、ターゲット半径15m以内）

【HGソロフライト検定科目】

1. セットアップとプレフライトチェック
2. テイクオフ
3. 直線飛行中の失速と回復
4. 360度旋回（45度バンク左右いずれか3周連続）
5. 場周アプローチ
6. 安全なランディング
7. ランディング精度（足のみで着地、ターゲット半径15m以内）

【PGタンデムフライト検定科目】

1. フライトの準備
2. フライトプラン ※時間的都合で実際は確認できていないと思われる。
3. 同乗者の管理（行動手順の説明と理解度の確認）※時間的都合で実際は確認できていないと思われる。
4. 安全な離陸
5. タンデム機での飛行技術の確認（360度旋回2周を20秒以内、45度バンクのローリング）
6. 正確なランディングアプローチ（ファイナルアプローチを5秒以上）
7. 安全な着陸（半径15m以内）

【HGタンデムフライト検定科目】

ソロフライト検定と同じ科目をタンデムで実施

HG合格者

佐藤信博（山形） 鈴木由路（東京）
町田重幸（山梨） 鈴木博司（岐阜）
外村仁克（和歌山） 松村貴博（鳥取）
板垣直樹（茨城） 北野正浩（茨城）

PG合格者

田代茂樹（北海道） 三上祐司（青森）
尾形梅三郎（宮城） 金井 誠（山形）
文字英彰（埼玉） 島野広幸（神奈川）
伊尾木浩二（群馬） 岩橋 亘（山梨）
鍛冶稔也（長野） 城所敏浩（茨城）
福田武史（茨城） 板垣直樹（茨城）
佐藤研斗（茨城） 殿塚裕紀（栃木）
塚部省一（栃木） 加賀山務（静岡）
伊代野正成（静岡） 目黒 敏（静岡）
斎藤雅一（静岡） 白鳥正武（愛知）
山口隆文（石川） 梅迫賢一（兵庫）
飯田高治（兵庫） 市川 正（鳥取）
阿部章吾（香川） 小林秀彰（福岡）
徳永昌也（熊本） 吉満幸二（鹿児島）
大城芳郎（沖縄） 安次嶺純（沖縄）

2018年12月2日 オーストラリアHAY-YEVOAL 直線距離375km

PG日本記録更新！さらに挑戦は続く。

報告：呉本 圭樹

国内外の競技で活躍する呉本圭樹さんが、オーストラリアのフラットランドでパラグライディング世界記録に挑戦。今回は世界記録には至らなかったが、直線距離飛行375kmが日本記録として公認された（2019年2月8日、日本航空協会公認）。そのチャレンジを呉本さんに振り返ってもらった。

ブラジルで樹立された直線距離世界記録564.3kmを超えようと、昨年11月28日にメルボルンから電車とバスを乗り継ぎ6時間かけてデニリクインへ。Naville-福岡聖子、Charryらに合流し、29日はトーイングの練習を兼ねて、315km、6時間のフライト。翌日は50km、2時間飛行に留め、12月1日、いよいよトーイング機能付きでトレーラーを引いたトラック2台に参加者10名の荷物や食糧を積み込んで、可能性の高い場所へと移動を開始。

今回の挑戦の地をオーストラリアにしたのは、広大なフラットランド、距離飛行に適した気象条件、治安のよさなどのほか、トーイング技術が確立されていることも大きなポイントでした。好条件を求めて移動できるのはトーイングだからこそです。

キャンプ生活を始めて2日目の12月2日は、風はそこそこに強く、雲は無く上昇が探しにくいながらも、弱い上昇をタイミングよく乗り継ぎできるコンディション。高度は2,000mに行かな

いので、滑空と上昇のタイミングが短く慎重さが必要な日となりました。

離陸後、雲一つない空が広がり、上昇気流の場所の推測がしにくい状況。離陸時の風は地上で6 m/s近く吹いていたので、上空はそれ以上の風の中でのフライト。上昇はあるものの、そこを外れるとシンクも多く、強い上昇だけを捕まえていくというよりは、確実に上昇気流を捕まえるというフライトを終始強いられました。

基本的にはフラットなどこまでも続く平野を飛び続けますが、保護地区となっている林や、丘のような山もまた広大で、越えるためには確実に高度がないと非常に不安になるほどです。また日本と違い、比較となる畑の区画が大きいために、実際に見ている体感高度があてにならない、常に高度が低く感じる状況。GPS高度を確認し、自分の速度を計算しながら、視覚からの情報を修正しながら、自分の気持ちをコントロールしていくことが重要でした。

この時期は乾季であるオーストラリアですが、去年はそれが異常なくらいだったということでした。多くの池や湿地が干からび、湿度が低すぎるためか、サーマルは通常のように素直な上昇をせず、まるでちぎれるような上昇帯が常に続いていました。夕方になり（とはいってもその時点では19時を越えていましたが）日が傾き上昇は弱くなり、高度は低くなるのみ。



着陸5分前。太陽がもたらすエネルギーもあと僅か。

上昇の可能性を探りながらこの時点で出てきた線路に沿って飛び、弱くも上昇し続けるサーマルにあたり、逃さないように流されながら上げていくと、高度は再び1800mを越え、目前に迫ってきた山を越えられる高度に。ここを越えて、次の街まで行けば400km。そこまではもう一度高度を上げる必要がありますが、とにかく進むのみ。

しかし、山を越えた時点で日の力はもうなく、あとは距離を伸ばして飛ぶだけ。しかし、人家は見当たらず、滑空を続けてようやく見つけた一軒家の庭に着陸。そうしてこの日、375kmの日本記録を出すことができました。

離陸地／時間：Deniliquin Conargo (S34° 23'59" E114° 54'45") /10:51

着陸地／時間：Road YEVOAL

(S32° 45'46" E148° 26'50") /19:29

フライト時間：8時間38分

フライト直線距離：375km

チャレンジ日程：11月28日～12月19日



体感高度があてにならない、広大な平野をひたすら進む。

今回の挑戦中に不幸な事故が起き、フランスのパラグライディング界を牽引してきたPierre Naville氏が亡くなりました。フライトを見合わせることも検討しましたが、彼の想い、また彼の妻である聖子さんの想いもあり、最終日までフライトを続けることになりました。聖子、シャルとともにもう一度世界記録への挑戦を誓い合い、2019年に再び挑戦することを約束し、今回のチャレンジは終了しました。

多くの皆様に応援していただき、その応援がフライト中、また、チャレンジ中は非常に自分の力になりました。

ありがとうございました。

2018年リーグを勝ち抜いたのは……

2018年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) 両競技委員会が運営する競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして年間ランキングを発表しています。前号に続き、年間チャンピオンたちの「ひとこと」をもらいました。

PG ジャパンリーグ

[総合]

1位	成山 基義	大阪	5255.0
2位	上山 太郎	大阪	5171.5
3位	呉本 圭樹	長野	5154.2
4位	廣川 靖晃	静岡	5099.4
5位	阿知波広和	愛知	5043.7
6位	山下 敦子	兵庫	4944.0

[女子]

1位	山下 敦子	兵庫	4944.0
2位	中目みどり	東京	4613.7
3位	望月 奈緒	大阪	4050.0

[スポーツクラス]

1位	小林 大晃	三重	3926.0
2位	田中 健	滋賀	3716.9
3位	氏田 敏彦	神奈川	3666.3
4位	梅岡 翔吾	栃木	3534.3
5位	印南 学	東京	3503.5
6位	府波 伸平	石川	3451.3

[2017-2018年 日本代表選抜]

1位	成山 基義	大阪	265.0
2位	上山 太郎	大阪	258.5
3位	呉本 圭樹	長野	245.1
4位	高杉 慎吾	広島	234.6
5位	平木 啓子	静岡	233.1
6位	廣川 靖晃	静岡	220.2

[2018年 日本代表選抜]

1位	成山 基義	大阪	208.1
2位	上山 太郎	大阪	184.3
3位	高杉 慎吾	広島	171.9
4位	平木 啓子	静岡	158.1
5位	呉本 圭樹	長野	157.3
6位	廣川 靖晃	静岡	144.4



総合1位
成山 基義

3度目のジャパンリーグチャンピオンに成ることができ、とても光栄に思っています。最近は思うような飛びがで

きず「自分もそろそろか…」と考えたりしていました。「新しいシーズンは初心に戻って楽しく飛ばう」そう思って挑んだ初戦の紀の川で、いきなり優勝。久しぶりに試合を、飛ぶこと自体を純粹に楽しめ「ああ、やっぱりパラグライダーが好きなんだな」と再認識し、無心で飛んでいた第2戦、第3戦と、まさかの3連勝することができました。2019年は、チャンピオンとして恥ずかしくない飛びでレースを引っ張っていく、そんなシーズンにしたいと思います。



女子1位
山下 敦子

アジア大会のみならず、参加希望者が多く注目の集まった2018年のJリーグ。ずっと「女子2位」だった私にとって、憧れの1位、本当に嬉しいです。

進化が必要な勝負の年。総合5位を目指しつつ、女子1位を見据えていました。初戦の紀の川では突っ込みすぎてゴールに届かなかったりチグハグでしたが、何とか軌道修正。途中、怪我から戦線離脱を余儀なくされましたが、復帰レースの吉野川では好成績で繋ぎ、運も味方して、素晴らしい結果に終わりました。上昇志向の仲間の集まるJリーグ。切磋琢磨できる環境のためにご尽力くださる方々に感謝するとともに、この活性化を継続・発展していけるよう今後も精進してまいります。



スポーツクラス1位
小林 大晃

もっと上手になりたいという想いで2017年から参加し始めた大会ですが、想像以上に楽しくて2018年は初めてフル参戦。大会に出るたび課題や反省点が沢山見つかりますが、それを克服するための試行錯誤も楽しいものでした。自分でもびっくりの結果を残すことができ、とても嬉しい反面こんなにトントン拍子に進んで良いのだろうか？何か良くないことが起きるのは？と内心ビクビクもしています。

2019年はオープンクラスになるため

今まで以上に課題が見つかると思いますが、それもまた楽しみです。もっと自分の判断で飛べるよう知識や経験を積み、オープンクラスでも上位入賞ができるような技術を身につけたいです。

PG ジャパン2リーグ

[総合]

1位	辻本 恵一	兵庫	2113.0
2位	岩谷 勝弘	奈良	2021.0
3位	橋本 泉	埼玉	1943.0
4位	坂本 智春	埼玉	1875.0
5位	山田 裕一	神奈川	1871.0
6位	森川 正則	大阪	1827.0

[女子]

1位	橋本 泉	埼玉	1943.0
2位	坂本 智春	埼玉	1875.0
3位	田村 康子	神奈川	993.0

[チーム]

1位	丹波パラグライダークラブA	14.0
2位	チーム印南	11.0
3位	TEAM 沢の霧	10.0



総合1位
辻本 恵一

いつも見上げていた表彰台に、良い風が吹き、機材に助けられ、そして何より共に飛んでくれる仲間達のおかげで、一番高いところに立つことができました。振り返ると、僅差だったようで、ホッとするとともに、一人ニヤニヤほくそ笑んでいます。

最近あらためて、飛ぶことと出会った時のように、空が、風が楽しくて仕方ないのです。たくさん飛んで、グラハンしまくりたいのです。それがこの結果につながったのかも。んで、この勢いでJ1もアキュラシーもと、柳の下のだジョウを狙っています。パラグライダー人生もファイナルグライドの感がある自分ですが、今後も飛びのスタイルは腰重くなることなく、尻軽で行こうと思う今日この頃なのです。



女子1位
橋本 泉

2018年は、いつもより大会数も増え成立した本数は少なめでしたが、新しいパイロットの参戦もあり、にぎやかで楽しいシーズンでした。その結果、女子1位（総合3位）はとてもうれしいです。ありがとうございました。

2019年は、また少し違った盛り上がりになるかもしれませんが、いろいろなエリアで沢山のパイロットの皆さんとフライトできるのを楽しみに、また刺激もいただき少しでもステップアップできたらいいと思います。

PG アキュラシーリーグ

[スクラッチクラス総合]

1位	和田 浩二	静岡	134.1
2位	岡 芳樹	東京	130.3
3位	古田 岳史	埼玉	113.7
4位	塚原 隆信	茨城	99.4
5位	古賀 光晴	北海道	86.3
6位	伊藤まり子	愛知	84.9

[スクラッチクラス女子]

1位	伊藤まり子	愛知	84.9
2位	橋本みさ紀	大阪	42.1
3位	平木 啓子	静岡	40.6

[ハンディキャップクラス総合]

1位	和田 浩二	静岡	144.3
2位	古賀 光晴	北海道	129.1
3位	古田 岳史	埼玉	97.9
4位	川村 眞	宮城	91.4
5位	岡 芳樹	東京	81.6
6位	小松 理樹	茨城	74.5

[ハンディキャップクラス女子]

1位	伊藤まり子	愛知	59.4
2位	平木 啓子	静岡	56.0
3位	橋本みさ紀	大阪	55.9

[チーム]

1位	Airkassy	52.0
2位	空とも	41.0
3位	のびのび	25.0



スクラッチクラス

総合1位

和田 浩二

アキュラシーリーグに参加するようになって何年か経ちまして、それなりに成績も良くなった今日この頃、リーグ順位を気にしないように楽しんでいましたが、リーグ1位になってみるとそれはそれでいい気分になります。ですが同時にリーグ1位ってモノがストレスになっていたりもしています。

今シーズンはリーグ1位のプレッシャーを感じつつ、あまり気にせずターゲットを狙って楽しみたいと思っています。とは言っても最近優勝していないので今シーズンも頑張ってパット中心を狙って頑張りたいと思います。



スクラッチクラス

女子1位

伊藤 まり子

2018年は3年間目標としてきたアジア大会が開催されましたが、突然のルール変更によりアキュラシーからは代表を選出しないという、私にとってショックな決定が3月にあり、アキュラシー競技へのモチベーションを完全に失ってしまいました。

年間リーグ女子優勝と言っても、胸を張れるのは朝霧での成績のみで、夏

以降の大会は心ここに在らずの状態のまま参加してしまい、全て不安定な成績で終わってしまいました。

2019年シーズンは、アジア大会を機にアキュラシーに興味を持ってくれた新しい仲間達と、年間を通じて楽しく競いあえるように、メンタルを整えて再チャレンジしたいと思います。

PG クロスカントリーリーグ

1位	中川 喜昭	最長4/10-146.5km +107.4+101.8+101.8 計457.5km
2位	二三四藤昭	最長4/1-124.1km +112.5+112.0+105.3 計453.9km
3位	多賀 純一	最長4/1-118.4km +112.0+107.2+105.4 計443.0km
4位	衣袋 隆一	最長4/1-119.7km +110.0+108.7+57.6 計396.0km
5位	杉下 拓也	最長5/1-108.6km +102.9+94.4+89.0 計394.9km
6位	花村 泰明	最長4/10-105.3km +100.1+99.1+86.8 計391.3km
最長飛行 中川 喜昭 4/10-146.5km 茨城県足尾山→福島県本宮市宮舞台		



1位/最長飛行

中川 喜昭

XCリーグ1位と年間最長距離の獲得を嬉しく思います。2018年は100km超のフライトが続出。特に3月末から4月初めの足尾は良いコンディションが続き、私もこの期間に4本の100km超を飛びました。このような好条件は近年あまりなく、長くXCリーグに参

2018年競技・XCリーグを振り返って

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

■Jリーグ

9大会開催、不成立2大会。DQが0.2以上のタスクが8本と、まあまあ年のでした。残念なのは、参加希望選手数が参加枠を超えセクションになった大会が5大会あり、Jリーグ登録をしたにもかかわらず大会に出場できなかった選手が出てしまったことです。そこで2019年度ルールを改定、セレクトされなかった選手がセレクトされやすくしました。初めての試みなのでいろいろと問題は出るでしょうが、逐次改良していきたいと思っています。

■J2リーグ

例年開催の平和カップがなかったにも関わらず4大会となり少しずつ盛り

上がりを見せています。これまではJリーグも選手が参加枠を超えることがなく、大会初心者でもJリーグに参加できていました。そのためJ2リーグ大会に参加する選手が少なく、大会を開催するところも少なかったのですが、昨年来Jリーグはセクションになる大会が増えて、J2リーグから大会参戦する選手が増える傾向にあり、今後希望が持てるようになってきました。

■AJリーグ

6大会が開催されましたが天候に恵まれず、6ラウンド成立が3大会、1ラウンド成立が3大会と、低調な年でした。参加選手が若干減少し、新しい選手が入らず少し将来に不安となりま

したが、昨年のアジア競技大会アキュラシー競技にJリーガーが挑戦し、意外と面白いと宣伝してくれたおかげか、今シーズンは現役Jリーガーも参戦するようになり、盛り上がりを見せており、少し期待も膨らんでいます。

■XCリーグ

参加選手数はほぼ変わりなし。フライト本数は25%増。100km超も28本あり、まあまあ年のシーズンでした。スタートは相変わらず地の利を生かした足尾山が多く85%を占めています。特に事故の情報もなかったので、皆さん安全第一で飛行されているようで助かっています。今年も是非事故のないようにお願いします。

加してきましたが、100km超を4本揃えることができたのは初めてのことで。ただ最長125km程度に留まり、最近では毎年150～160kmが記録されていることからすると物足りない距離です。もっと良い日が必ず来ると信じてチャレンジを続け、4月10日、磐越道を越えて福島県本宮市までの146km。自己記録168km更新には全く足りない距離ですが、多くのパイロットが競う中での年間最長距離の獲得に、とても満足しています。今年も自己記録更新を目指してチャレンジを続けます。

HG フライトコンテスト

[フリーディスタンス クラス1]

- 1位 石坂 繁人 5/22 173.63km
- 2位 牟田園 明 4/10 167.8km
- 3位 氏家 良彦 4/8 106.15km

[フリーディスタンス クラス5]

- 1位 岡田 伸弘 4/10 146.94km
- 2位 佐々木則生 4/10 143.13km
- 3位 板垣 直樹 4/10 134.3km

[アウト&リターン クラス1]

- 1位 石坂 繁人 4/20 104.82km
- 2位 砂間 隆司 5/1 88.55km
- 3位 氏家 良彦 5/1 67.95km

[アウト&リターン クラス5]

- 1位 林寺 仁 4/22 103.21km
- 2位 松田 隆至 4/13 103.11km
- 3位 山本 剛 3/17 89.2km

[トライアングル クラス1]

- 1位 石坂 繁人 4/13 95.03km
- 2位 十一 誠 3/17 56.46km
- 3位 板垣 直樹 2/5 52.62km

[トライアングル クラス5]

- 1位 山本 剛 5/27 93.34km
- 2位 松田 隆至 2/27 85.23km

[デュレーション クラス1]

- 1位 鳥羽 岳太 7/22 9:57:39
- 2位 大沼 浩 6/30 8:56:34
- 3位 松田 隆行 7/1 8:49:47

[デュレーション クラス5]

- 1位 林寺 仁 4/22 5:08:20
- 2位 柳田 崇 6/5 4:50:56
- 3位 山本 剛 5/27 4:27:56



フリーディスタンス／ アウト&リターン／トライアングル クラス1

1位 石坂 繁人

■フリーディスタンス 足尾山→福島県福島市 173.63km

5月下旬で、ほぼ全ての田んぼに水が入っている中でのクロスカントリー。特に前半は渋く、緊急ランディングの場所を常に探しながらのフライトでした。さらに白河市で危うく降りそうになるも何とか復活、郡山市～本宮市は2000mオーバーで悠々通過。安達太良山の火口をトップアウトできたこと、上空でも硫黄の匂いがしたことが印象的でした。結局、福島市で海風に阻まれてしまいました。2019年は山形ルートで日本記録更新を狙いたいと思います。

■アウト&リターン 足尾山↔栃木県鹿沼市 往復104.82km

広い関東平野の向こうの山まで行って、足尾に帰ってきました。序盤は栃木県小山市へ。足尾の西の平野を飛ぶのは本当に開放的で気持ちいいです。栃木市で対岸の山にとっつき、さらに奥の鹿沼市で2000mオーバー。帰りは条件がさらに良くなり、足尾までの帰還はあっという間。もう少し欲を出せば120kmくらい飛べたかもしれませんが、数年前に鹿沼市に降りてしまったので、この日はリベンジできて満足でした。

■トライアングル 足尾山→栃木県芳賀郡→栃木県小山市→足尾山 トータル95.03km

緩い冬型の気圧配置で、広い範囲で風が弱くなる予報だったのでトライアングルに挑戦しました。栃木県真岡市で少し低くなったことを除けばトントン拍子で小山市まで。最後は筑波山西

側で雲底2500mまで上昇し、余裕で山を越えて足尾に帰ってきました。地図をしっかりと把握していなかったため、2回目の折り返しが少し早く100kmを超えられなかった点が悔やまれますが、その難しさこそがトライアングルの醍醐味だと思いました。また、回収の時間とコストがかからないのは帰ってくることの魅力の一つだと実感しました。



フリーディスタンス クラス5 1位 岡田 伸弘

このシーズンになると毎日、気象情報をチェックし翌日のフライトを予想します。2018年4月10日は新記録を出せる可能性があるかと判断し静岡より足尾エリアまで遠征しました。他に同じ考えをもったパイロット達が集まっています。彼らと一緒にあったり離れたりしながら北上しました。順調に白河を越しましたが、その先はサーマルが弱くなってしまいました。高度を取り戻すのに時間がかかり、このペースでは新記録は無理だと判断し、今まで行ったことのない猪苗代湖に進路を変更。しばらくして湖畔近くにランディングしてしまいましたが、見たことのない景色が見られて満足でした。今年もまた日本新記録をめざしてチャレンジします。



アウト&リターン／ デュレーション クラス5 1位 林寺 仁

4月22日の足尾山でのフライトでアウト&リターンとデュレーションの2部門でランクインでき、たいへん嬉しく思っています。当日は、春にしては渋めのコンディション。低いサーマル上限+ブルーコンディション+終始一人ぼっちだったので特に記録を狙うような気負いもなく、シンクに落ちるリ

2018年フライトコンテストを振り返って

XCリーグから競技種目を従来のフリーディスタンスに加えアウト&リターン・トライアングル・デュレーションの4部門にして2年目。徐々にではあるが盛り上がってきたと思う。

フライトコンテストの特徴はパイロット自身が記録に挑戦するためにフライトプランを決める！ということだ。

記録に挑戦するには何日も前から気

象情報を調べ、自分の技量・機体の性能等を考慮してしっかりと計画し、当日のコンディションに臨機応変に対応できる能力も必要とされる。今回、特に強さを発揮したのが石坂だ。石坂はクラス5機を抑え3部門を制した。これは奇跡的な記録と言える。

他の選手もそれぞれが自身の記録に挑戦し自己記録を更新している。日本

ハンググライディング競技委員長 板垣 直樹

のハンググライディング全体の向上に大いに役立っているのではと、我々ハング競技委員会も満足している。

皆さんも「自分はとても記録更新は無理だ」と諦めずに、自己記録の挑戦、ホームエリア記録の挑戦で構いませんので、安全に無理せず楽しんで、ハンググライディングスポーツとフライトコンテストを盛り上げてください。

スクをミニマムにすることだけ意識してのんびり飛んでいました。淡々と半ば機械的にリフトラインを追いかけていただけでしたが、思いがけずよい結果が出ましたね。時間も距離も自己最高記録です。日時もエリアも問わず挑戦できるフライトコンテストはとても励みになります。今年もっとビッグフライトができるようにいろんなエリアにお邪魔したいと思います。



**トライアングル
クラス5 1位
山本 剛**

忙しくて飛べない春でしたが、5月末に2ヵ月ぶりにフライトでき、タイトル獲得できたことを嬉しく思います。クロカン嫌いの私は、ここ10年トライアングルやアウト&リターンに取り組んできました。その日の気象条件を読み解いてタスクを設定しランディングに帰ってきたときの達成感はクロカンでは得られないものです。さらにアウトサイド時の回収も短くて済むので、皆さんもぜひ挑戦してみてください。



**デュレーション
クラス1 1位
鳥羽 岳太**

フライトコンテストのデュレーション部門ができた2017年、それならと8時間飛んで、こんな物好きは他にいないだろうから優勝は固いと思っていたら、わずか3日後に石坂選手に抜かれて準優勝に。2018年は記録を出す条件が揃った十分一エリアに狙いを定め、ここぞという日に単身遠征して10時間近い記録を作り優勝することができました。この部門は予想外の盛り上がりで、2018年はなんと8時間超えが5人。変態仲間がこんなにいて嬉しい限りです。ただ、記録を狙うとなると強い風で飛ぶことが多いので、コンディション選びは慎重に。夕方に向かって風が弱くなる傾向で、サーマル弱めの日がお勧めです。安全第一で楽しく長く飛びましょう！

各リーグのランキング詳細、大会開催予定、リーグへのエントリー方法などは、JHFウェブサイトのPG競技委員会、HG競技委員会のページに掲載しています。ぜひご覧ください。

上空利用可能デジタル無線機使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリヤーで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイト）にバナーを掲載）からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フ라이어会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧ください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。うっかり忘れていたということのないようお願いします。

JHFからのお知らせ

■チェック5タグを頒布

JHFではハンググライディング・パラグライディングの事故撲滅を目指して「空の事故ゼロキャンペーン」を実施するとともに、全国各地のフ라이어会員の皆さんに「チェック5タグ」をお届けしました（JHFレポート222号に同封）。それぞれタグを活用し、プレフライトチェックの徹底に役立てておられることと思います。

追加のタグを入手したいというご要望があり、結束バンド付きで在庫を用意しました。ご希望の方は各地のJHF登録スクールでお求めください。

JHF事務局から直接お送りすることもできます。1セット300円（送料込み）で頒布しますので、メールかFAXにてご連絡ください。

今後も「チェック5タグ」を装着し、フライトの基本中の基本、プレフライトチェック、クロスチェックを徹底されるようお願いします。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は、JHFウェブサイトの「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」ページより貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力の上、メールかFAXでお申し込みください。

■転居のお知らせや各種申し込み

お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail : info@jhfhangpara.or.jp

https://jhfhangpara.or.jp/

*このJHFレポートには、JHF総合保障制度パンフレット、賛助会員からのお知らせを同封しています。静岡県、神奈川県在住の方には各県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート225号

発行日：2019年（平成31年）4月20日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社サンライズ